

平成28年度東京大学視察研修実施レポート

今年度で8回目となる東京大学視察研修を平成28年8月1日（月）～2日（火）の1泊2日の日程で、実施しました。県内の公私立高校22校から参加した60名の高校生にとって、知的好奇心を大いに刺激され、夢の実現に向け、目標とする将来像をより具体化していくための貴重な機会となりました。

【1日目】

まず、東京大学工学系研究科総合研究機構長である寺井隆幸教授の挨拶の中で、この研修の導入として、工学は、豊かな社会の実現に必要な「技術」の原理・基礎から応用までを研究するもので、対象は原子分子から地球環境に及び、モノやシステムの創造から管理・運営・廃棄までを取り扱い、工学の総合化として理科系から文科系まで幅広い関わりがあるとの解説がありました。

●講義テーマ

- ・「ハーバー・ボッシュ法を超えるアンモニア合成は誕生するのか？」
- ・「気候変動対策は緩和と適応、どちらが重要？」
- ・「風力発電の現状とこれから—いま必要とされている技術は？」

これらのテーマごとに、現状と課題、最先端の技術や研究成果、今後の展望などについて説明がありました。各講義の後には、参加生徒から講義内容についての積極的な質問がありました。

講義終了後は、蒲島知事が団長として、東京大学に対して研修受入れの御礼を述べられるとともに、参加生徒に対しては、「本日の経験を励みに、夢の実現を目指してほしい」などの励ましの言葉を、終始にこやかに語りかけられました。また、東京大学の先生方と参加生徒たちによる交流会が実施されました。

【2日目】

研究設備の見学では、地下1階から地上2階に及ぶ巨大な超高压電子顕微鏡室（透過型電子顕微鏡）、表面の観察にそれぞれ適している走査型電子顕微鏡、長大橋梁の弾性模型実験が行える幅16mの風工学実験室、空気中の微細な埃を除去するスーパークリーンルームについて現場で説明を受け、その機能を体験しました。

その後、東京大学工学系研究科の大学院生の案内で、キャンパスツアーを行いました。

【参加生徒の感想】

多くの生徒たちが、この研修への参加により、東京大学の先生方や大学院生、蒲島知事、また、1泊2日の行程をともした他校の生徒たちと直接に接することで、大きな刺激を受け、自分の夢に向かってさらに努力していくという思いを強くしていました。

